

い きん しょう けい 衣 錦 尚 褻

図書館通信 2016年度第2号 2016.5.18. 発行:麻布学園図書館部

*図書館入り口のギャラリーには、創立者・江原素六の筆になる「衣錦尚褻」という扁額が掛けられています。この言葉は、『中庸』を出典とするもので、一般には奥ゆかしさを意味しますが、図書館では、知識や学問を身につけてもそれをひけらかさないという、銜学を戒める言葉として受け止めています。

本の紹介

『ショッピングモールから考える ユートピア・バックヤード・未来都市』

東浩紀・大山顕 著(幻冬舎新書)

大石将朝 (国語科)

私は3年前に子供ができてから、ショッピングモールで買い物をすることが多くなった。まず、自宅からベビーカーを積んだ車で出発し、雨でも濡れることなくそのまま店舗内に入ることができる。そして、車から降りたらベビーカーに子供を乗せたまま、エレベーターで商業エリアに入ることができる。都心の狭い土地に高層で建てられていることの多い百貨店とは異なり、郊外の広い土地に低層（大抵は三層吹き抜けでその上に駐車場が二層くらい載っている）で建てられていることが多いため、通路が広くて回遊性が高く、ベビーカーを押していても他の通行人の邪魔にならないし、あちこち角を曲がらなくても全ての店舗を見ることができる。フードコートに行けば、ベビーカーに子供を乗せたままで（あるいは子供用の椅子に座らせて）食事をすることができるし、食事中に子供が泣きわめいても、周囲も同じ事情を抱えた家族連ればかりだから全く気を遣う必要がない。母乳やミルクをあげたり、おむつを替えたりできる「赤ちゃん休憩室」も必ず付いているし、トイレも広々としていて必ずおむつ交換台が付いている。小さい子供が靴を脱いで遊べる無料のコーナーもあるし、「アカチャンホンポ」のようなベビー用品店も必ず入っている。ベビーカーが必要な子供を持つ親にとって、ショッピングモールはまさにユートピアである。そして、それは車椅子が必要な人やその家族にとっても同様であるに違いない。つまり、ショッピングモールは幼児や高齢者や障害者といった「弱者」を支える商業施設という一面を持っているのである。（そういえば、モールのフードコートは1円も払わなくても空調の効いた空間で水を飲みながら長居できるため、お金のなさそうな中高生が勉強部屋代わりに使っているのもよく見かける。）

しかしながら、ショッピングモールというのは思想業界では実に評判が悪い。新自由主義を推し進めた小泉内閣による大店法の規制緩和を通じて2000年代以降に急増したと信じられていることもあって（実情はどうも違うようだ）、巨大資本をバックに地域の個性的な商店街を支える人々の暖かい繋がりを破壊し、街の画一化を推し進めた、地域社会や「公共性」の敵とみなされているのだ。



本書は、このような言論界のショッピングモール観に疑問を抱いた批評家の東浩紀が、団地・工場マニアとして有名な写真家の大山顕と共に、ショッピングモールのポテンシャルについて徹底的に語り尽くした本である。…というとなんだか難しい本のような気がするかもしれないが、そんなことは全くない。元々が公開のトークショーの記録であることもあり、二人の対話は脱線に次ぐ脱線を重ね、ショッピングモールからはるか遠くまで飛躍していく。そして「モールには内部しかない」「モールには行き止まりがない」「百貨店は田んぼだがモールは都市である」「モールの起源はイスラム庭園である」などの魅力的なテーゼが次々に飛び出してくる。そこには、あとがきで東自身が触れているように、政治化した現代日本の批評が失ってしまった、いい意味で融通無碍な「批評」の愉しみが満ち溢れている。この本を読めばショッピングモールに行くのが100倍楽しくなるのは間違いない。（現にこの本を読んで以来、私はモール巡りが新たな趣味になってしまった。最近行ったモールのなかで一番感動したのは、沖縄に誕生した巨大モール「イオンモール沖縄ライカム」である。これは素晴らしかった。もし魅力的なモールを知っている人がいたら、ぜひ私に教えてほしい。）

図書館からのお知らせ

1. 生徒図書委員会による古雑誌販売のお知らせ

日程は別途お知らせしますが、昨年度購入した雑誌や、古くなった語学テキスト(CD付)を格安で販売します。
詳細は号外を待て!

2. 麻布ミニシアターを開催します。

本日放課後より図書館2階の階段下にて「麻布ミニシアター」を開催します。図書館が所蔵するAV資料を火曜から金曜日の放課後に流します。
アニメ→洋画→邦画→アジア映画→教養作品の順でアイウエオ順に毎日流します！
第1回目の本日は「あの日見た花の名前を僕たちはまだ知らない」です！

お楽しみに!



※今日からはこの順番で流します。次に来るのはお楽しみ!

新着資料紹介

4月24日から5月12日までに登録した資料の紹介をします。定期的に入るものは抜いたものがあります。
(マークの説明:「・」→一般購入、「*」→継続購入、「※」→寄贈図書、「◇」→リクエスト、「☆」→学校生産)

※麻布校刊／増田捺治／2016年度高校3年生有志／091-あ

※ Eigetsu (盈月) 2016年文化祭号／中本憲利／麻布学園文芸・漫画研究部／091-ぶ-15 文

・「日中歴史共同研究」報告書 第1巻、第2巻／北岡伸一／勉誠出版／210.18-き-01,02

・日本はなぜ戦争をやめられなかったのか／額額厚／社会評論社／210.75-こ

※自転車で見えた三陸大津波／武内孝夫／平凡社／291.2-た

※韓国「反日街道」をゆく／前川仁之／小学館／292.1-ま



・パレスチナを知るための60章／白杵陽／明石書店／302.2-ば

・香港を知るための60章／吉川雅之／明石書店／302.2-ちゅ

・アイスランド・グリーンランド・北極を知るための65章／小澤実／明石書店／302.3-あ

・ナミビアを知るための53章／水野一晴／明石書店／302.4-な

・近代日本のリーダーシップ／戸部良一／千倉書房／312.1-と

・政党内閣制の成立一九一八～二七年／村井良太／有斐閣／312.1-む

・昭和天皇伝／伊藤之雄／文春文庫／313.6-い

・国会改造論／小堀眞裕／文春新書／314.1-こ

・ウェストミンスター・モデルの変容／小堀眞裕／法律文化社／314.3-こ

・昭和の政党／栗屋憲太郎／岩波現代文庫／315.1-あ

・日本政党史／季武嘉也／吉川弘文館／315.1-す

※ヨーロッパの分断と統合／羽場久美子／中央公論新社／319.3-は

・治安維持法／中澤俊輔／中公新書／326.8-な

・リアル・デモクラシー／宮本太郎／岩波書店／361.6-み

・僕が家庭科教師になったわけ／小平陽一／太郎次郎社エディタス／375.5-こ

・暴走する自衛隊／額額厚／ちくま新書／393.2-こ

・理系の話大全／話題の達人倶楽部／青春出版社／404-わ

・理系のネタ全書／話題の達人倶楽部／青春出版社／404-わ

・サイエンス入門 1・2／Richard A.Muller／楽工社／420-む-01,02

・新化学／大野惇吉／三共出版／430-お

・エネルギー問題入門／Richard A.Muller／楽工社／501.6-む

・私にとっての20世紀／加藤周一／岩波現代文庫／914.6-か



※スター・ウォーズ フォースの覚醒／J.J.エイブラムス／ウォルト・ディズニー／D洋-ス-08



ストーリー:

新たなる3部作の1作目、始動—

映画を超えた史上空前のエンターテインメント『スター・ウォーズ』。砂漠の惑星で家族を待ち続けている孤独な女性レイは、謎のドロイドBB-8と、ストームトルーパーの脱走兵フィンと出会い運命が一変する。

一方、十字型のライトセーバーを操るカイロ・レン率いる帝国軍の残党であるファースト・オーダーは、消えたとされる最後のジェダイ、ルーク・スカイウォーカーの行方を追っていた。

ハン・ソロ、チューバッカ、R2-D2、C-3POら不朽のキャラクターたちも登場し、フォースを巡る<新たなる伝説>が幕を開ける。

・あん／川瀬直美／ポニーキャニオン／D邦-あ



ストーリー:

縁あってどら焼き屋「どら春」の雇われ店長として単調な日々をこなしていた千太郎（永瀬正敏）。その店の常連である中学生のワカナ（内田伽羅）。ある日、求人募集の貼り紙をみて、そこで働くことを懇願する一人の老女、徳江（樹木希林）が現れ、どらやきの粒あん作りを任せると。徳江の作った粒あんはあまりに美味しく、みるみるうちに店は繁盛。しかし心ない噂が、彼らの運命を大きく変えていく…

・きけ、わだつみの声／出目昌伸／東宝ビデオ／D邦-き



解説&ストーリー:

愛する人を、守りたかった。1943年 学徒出陣——涙の数だけ、別れがあった。あの頃の僕たちには青春がなかった。心に鍵をかけ、戦場へと発った若者たちの内なる声……。戦後50年を記念して、学徒出陣した若者たちの遺稿手記集「きけ わだつみのこえ」を、いま一度映画化。戦時下の若者たちの短い人生と、彼らの友情を描いた悲哀の青春群像劇。1943年10月21日、神宮外苑の学徒出陣式。ラグーマンの鶴谷勇介、勝村寛、相原守、芥川雄三もその中にいた。「生きて再び此处でラグビーをやりたい…」だが、その想いを口にする者はいなかった。物語の舞台はやがてフィリピン・リンガエン湾の悲惨な戦場<フィリピン戦線>と太平洋戦争下の日本<本土・沖縄戦線。へ。グラウンドではない戦場に立つ彼らは、戦いの中で生死を見つめ、胸の内を語ることなく散っていく——。敗走の中、自爆により国を守る“特攻”という苦肉の戦法に出た日本軍。その犠牲者として還らぬ人となった多くの若者たち。<わだつみ（海をつかさどる神）>となって切なる想いを波音に託す彼らの声を、我々はしっかりと聞き留めなければならない。